

狭き門より入れ。滅びにいたる門は大きく、その道は広く、
これより入る者 多し。
命にいたる門は狭く、その道は細く、これを見出す者 少なし。
(マタイ福音書七・13-14)

Enter through the narrow gate. For wide is the gate and broad is the road that
leads to destruction, and many enter through it.
But small is the gate and narrow the road that leads to life, and only a few find it.

「狭き門」、この言葉は、大学入試や就職のときにも、〇倍の狭き門、などよく言われる。しかし、この聖書の言葉は、そのようなこととは全くことなることが言われている。狭き門から入り、細き道を歩む、それは神との交わりのうちに示された道を歩む道であり、一言にして言えば祈りの道である。

ここで言われている命とは永遠の命であり、生物としての命でなく、神の持つておられるような命である。それは壊れることなく、聖なるもの、また真実や愛に満ちたものである。

そのような命が私たちの究極的に与えられるものと聖書は約束している。そのためには、求めなければならない。狭い門から入り、細い道を歩むことが必要となってくる。自分の名誉、快樂、自分中心の考え方など、だれでも持っている。そうしたものを中心に生きることは、命へと続いていない。

日々の生活のなかで、生きて働いておられる神、愛と真実な神への祈りを持って生きることこそ、この狭き門を入ろうとすることであり、また細い道を歩むことになる。それは目には見えな
いお方を心に見つめ、そこから力や導きを得ようとして歩むことである。

祈りなく、神を仰ぐ心がなかったら、私たちは自分中心、見えるものばかりを見つめて生きていくことになる。祈りとは自分と神を同時に深く知ることができるようにしてくれる。神を見つめる
とき、私たちは自分の弱さを知らされる。また弱さや苦しみの中から神を仰ぐときには、そのよ
うな小さき自分であるにもかかわらず、愛をもって見つめてくださる神を実感することができる。

門は、狭く、その道は細くとも、その道を歩み続けていくときには、折々に聖なる風が吹いてく
るし、どこまでも広がる霊的な世界へと導かれていく。また、途中で与えられる、見えざる世界
の風景—神の導きは経験したものだけがわかることである。狭い道であるにもかかわらず、そ
の道では、何にも代えることのできない自由がある。

「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。
あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」(ヨハネ福音書 8:31-32)

野草と樹木たち



ハマダイコンと大里海岸

徳島県海部郡海陽町 2009.3.10

この植物は、徳島県南部の高知県境に近いところにある、2キロ余りも続く広大な海岸にて見出したものです。遠景の海は、太平洋です。月に一度の小集会のために訪問した帰りでの撮影です。この日は、久しぶりの青空のもと、誰一人いない美しい砂浜の広がるところに、今年初めて

咲き始めたハマダイコンがあったのです。まだ春先なので20センチほどの高さで、花びらは淡い紅紫色の美しいものです。この植物は、海岸に力強く打ち寄せる波を見つめ、その波音に聞き入りながら花を咲かせている感じがしました。

海からの強い風を受けつつ、肥料もなく、夏には40度を越える高温の砂地であるにもかかわらず、たくましく育つこの野草は、花もまた美しいものです。野性の強さのなかに、繊細な花びらが印象的です。ほかのほとんどの野草たちはこうした厳しい環境では、育つどころか、芽生えることもできないのですが、このハマダイコンはそうした環境にも耐えて芽生え、育って花をつける力を与えられています。

人間においても、どのような困難な状況に置かれてもなお、たくましくその魂のなかに繊細なよきものが芽生え、育って花を咲かせることが見られます。無から有を生じさせる神にとっては、不可能なことはないからです。

現代の精神の荒野にあっても、私たちも神からの力を受け、たえず新たなよきものの芽生えと成長を与えられたいと願います。(写真、文ともに T.YOSHIMURA)
